

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡崎市立 南中学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒〒444-0840

岡崎市戸崎町字野畔8番地1

E-mail minami@st.oklab.ed.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 207 名 女子 192 名 合計 399 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、29年度の重点努力目標を「本気で取り組み、努力する積み重ねの大切さを実感しながら、人のため世のために貢献できる生徒の育成をめざす」とした。ESD実践研究テーマとして、「他者とのつながりを考え、自己を進んで表現し、コミュニケーションのできる生徒の育成」とした。

具体的には、①グループ学習の継続によるコミュニケーション能力の向上に関わる取り組み②ESDの「つながり」に重点を置いた教科指導としてESDカレンダーの活用③生徒会活動・特別活動におけるコミュニケーションの場の設定④総合的な学習の時間である環境学習から、他者・社会・自然とのつながりに関わる学習を中心に行った。

① グループ学習の継続によるコミュニケーション能力の向上に関わる取り組み

授業において、個別で考えを深める場面と話し合い活動をとおして他者の考えを知り、再度思考を深める場面との両方を設定することで、さまざまな考え方や受け止め方があることに気付くことができた。音楽科の「旋律の創作」に取り組む授業では、アルトリコーダーを用いて創作活動し、旋律を何度も演奏し聴き、話し合う姿があった。技術科の「正しい道具の使い方」を学ぶ授業では、個々がくぎ打ちをとおして、げんのうの正しい使い方を捉えワークシートにまとめた。その考えを発表することで共有し、技能を高めていく場面があった。個で考えたことを全体に広げ、また個に返すことで、分かる、できる喜びが実感できる教科指導に繋がっている。

② ESDの「つながり」に重点を置いた教科指導としてESDカレンダーの活用

学年ごと、教科ごとでの年間計画の中にESDとしての取り組みを明記している。保健体育科の「バドミントン」の授業では、2年生では「スペースの活用」3年生では「ショットの使い分け」と学年に沿った技能課題とした。そのため、個々に課題目標を設定しタスクゲームを行う形態、二人一組でショット別ラリーに取り組む形態を考え工夫することで、目標とする思考や判断の経験、技能向上に有効であった。

③ 生徒会活動・特別活動におけるコミュニケーションの場の設定

人権週間のまとめとして、生徒会が中心となり啓発活動として「いじめ撲滅集会」を行った。保護者からは「あなたがいてくれて…」から始まるメッセージを募集し、保護者による音読を実施した。後日、手書きのメッセージを校内掲示した。また、体育大会縦割り応援やバザーボランティア、各種実行委員活動に取り組んでいる。

④ 総合的な学習の時間である環境学習から、他者・社会・自然とのつながりに関わる学習

1年生では「防災について考えよう」「いえまですごろく」を活用し災害時の避難方法や防災について考えた。また、「起震車体験、消火活動、応急処置講座」をとおして学び、「地域防災マップ」作成に取り組んだ。2年生の職場体験学習、3年生の修学旅行班別研修など、自然・他者・地域とのつながりを生徒に意識させながら取り組ませることができた。



① げんのうの使い方を話し合う



② スペースの見つけ方などを助言しあう



③ 「いじめ撲滅集会」生徒会提言



④ 防災マップ 情報共有

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「いえまですごろく」「まもるいのち ひろめるぼうさい」「みんなの防災ハンドブック」「3. 11 震災の語り部 畠山卓也～石巻からの声～」など多数
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

下記のような年間計画を学年ごとに作成し実施している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学年	学習項目	主な体験・活動	学習のまとめ
1	・人間と自然との共生 ・生物多様性の役割と大切さ ・生態系を守る活動	・バイオリーンションマップ ・ツルグレン装置を使った実験 ・生物の保全活動	・市内小中学校の生物保全活動 ・あいちグリーンウェイブ活動への参加
2・3	・低炭素社会・共生社会の実現に向けて ・持続可能な未来実現のためのエコアイデアづくり ①家庭のエコ（環境家計簿） ②企業、自治体のエコ ③チャレンジ25にむけたエコ	・エコクイズ ・岡崎市内の市町村のエコ活動 ・「衣食住」からの温暖化防止 ・環境年表作成 ・職場体験と地元企業のエコ活動 ・エコアイデアづくり	・職場体験学習事業所に発信するエコアイデア ・環境家計簿実施報告会から見直す我が家のエコ ・わたしのオリジナル環境家計簿づくり ・未来世代への提言
環境学習については上記の学年ごとの計画を作成し、継続して取り組んでいる。			

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

<ul style="list-style-type: none"> ・学力面 学校生活全般をとおして落ち着いた生活ができている。毎日の授業が分かりやすく楽しいと感じている生徒が生活アンケートの結果から 86.2%おり、集中して取り組める者が多い。また、全校での話し合い活動などでも積極的に挙手できる。この点と小規模校の強みを生かし、全校や学年で主体的・対話的な学びを実現させていきたい。 ・地域からの評価 保護者からは、地域を生かした教育活動が実践されているという項目では 86.8%の評価をいただいている。また、学校評議員からも、特色ある教育活動を展開されているという項目では 100%の高い評価をいただいた。家庭・地域とさらに連携を深めていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動の様子は日々、学校HPや学校メールにて発信。また、毎月学校新聞を発行し、学区回覧板で地域に配付。学区と保護者へ必要な情報を提供し、生徒の生き生きとした姿を伝えることによって、地域や保護者から高い評価をいただいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

6月…職場体験(2年)60を超える事業所の協力に加え、今年度は新たに保護者の勤める事業所34件へも依頼し、職場体験分野を増やし実施した。職場体験分野を増やし勤労感について考える視点の多様化を図った。
8月…「学区大清掃」各地区に分かれて、地域の方とともに学区の清掃に取り組んだ。
1月…「地域講師の会」9講座25名以上の講師の方の参加をいただき開催した。毎学期…読み聞かせの会を実施し地域の方にボランティアで活動していただいた。
毎学期…SEP資源回収活動を実施 委員会生徒を中心に資源回収を呼びかけ活動した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

29年度は該当活動なし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

生徒同士のコミュニケーションの場を設定することで、学校生活、行事、部活動などでも学年を問わず親しみをもって関わることができている。地域とのつながりある「地域講師の会」「読み聞かせ」「トップランナーから学ぶ会」などの実施をとおしてさまざまな人の考え方や感じ方を知ることによって他者とつながることや尊重することを学んでいる。異学年交流の際には、このような経験をもとに、多面的・総合的に考えたり、関わったりする力の向上にも役立っていると感じられる。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

「持続発展教育(ESD)」の実践を核とした特色ある学校づくりの推進
・「災害への備えから学びを深め、思い合い・助け合える生徒の育成」をテーマとして「自らの命を守り、地域の人たちとともに生き抜くための防災教育」を展開する。

・地震に特化し、自助・共助・公助の観点から、防災への備えを学ぶ中で、知識が知恵となり、自らの判断で適切に行動できる生徒を育てる。

・ユネスコスクールとしての取り組みの一環として、岡南祭一日目に防災教育のまとめとして、防災に関するシンポジウムを開催する。先進的な研究者や地域の防災関係者を招聘し、防災意識を深めるとともに、地域へと発信する機会を設ける。

・体育大会において、2・3年生全員参加による「南中澆刺太鼓」を行う。

・岡南祭(文化祭)において地域の偉人・歴史を題材にした「南中劇」を行う。

・生徒会のテーマである、「絆」～個々から皆へ～を核として、学年を縦割りにしての異学年の交流活動をとおして、学校への帰属意識を高めるとともにつながりを意識した絆へと心を育てる。